

趣味はドライブで、休日は道内各地を巡っています！



介護業界に入った理由は？

祖父が特別養護老人ホームの施設長、父が消防士、伯母が看護師と身近で人命に関わる仕事をしている人が多く、昔から「自分もこの手で、何か人を助ける職に就きたい」という漠然な思いがありました。この業界を選んだのは、幼いころから介護施設のレクリエーションなど、楽しい行事に連れて行ってくれた、祖父の影響が大きいですね。



午後のおやつ時間。食事の介助を行います。



部屋に戻るお手伝い。お話をしながら移動します。

今の職場でやりがいを感じる瞬間は？

現在勤めている緑寿園は、特別養護老人ホームであるため、入所者は介護度の重い方が多いです。自分で起き上がれなかったり、お風呂に入れなかったりする方々の介助は大変なことも多いですが、支える中で「ありがとう」と声掛けをしていただいたときはとてもやりがいを感じますね。感謝の言葉を励みに、これからも頑張ろうと思えます。

1日のスケジュール（一例）

- 07:00 離床介助
- 07:30 朝食介助
- 08:30 口腔ケア、健康管理など
- 10:00 おやつ、ジュースづくり
- 11:00 昼食介助
- 13:00 入浴介助
- 15:00 介護（ケース）記録

人を助ける仕事がしくて

僕は介護福祉士になりました。

滝川市特別養護老人ホーム
緑寿園 勤務

梅津 俊弥 さん

栗山町の出身で、社会人歴2年目の梅津さん。高校を卒業後、地元にある北海道介護福祉学校で介護を学んだ後、介護福祉士の資格を取得しました。

その人らしさを 実現するには

取材にご協力いただいた東辻さん、梅津さんのお話はどれも勉強になることばかりでした。その中で共通して話題となったことがあります。それは「介護を利用する方一人ひとりのこだわりを、できるかぎり叶えてあげることが介護福祉士の大変さであり、やりがいでもある」ということです。

これからの時代は、AIや介護用ロボットを活用して業務の効率化・負担の軽減を図る動きが全国的に加速していくとされています。しかし、どれだけ時代が変わろうとも、介護を利用するのは「人」であり、人は多かれ少なかれ「こだわり」をもって日々の生活を送っています。そのこだわりを聞き、可能なかぎり叶えてあげられるのはAIやロボットではなく、現場にいる介護職員の皆さんです。

介護福祉士であることに自信と誇りをもって、一人ひとりと真剣に向き合う姿に感銘を受けた一か月でした。

今回の特集を機会に、皆さんも「介護のしごと」について、考えてみませんか？

【特集】介護のしごと おわり

現場の声

介護業界で活躍するお二人にインタビュー！



利用者さんが何でも 相談できる身近な存在 でありたいです。

滝川市社会福祉協議会
訪問介護事業所 勤務

東辻 祐加 さん

二児の母で、子育て真っ最中の東辻さん。小規模多機能型居宅介護やデイサービスなどさまざまな職場を経験し、働きながら介護福祉士の資格を取得しました。



利用者
新庄 さん

1日のスケジュール（一例）

- 09:00 訪問スケジュール確認
- 09:10 訪問介護（1件目）
- 10:30 訪問介護（2件目）
- 11:40 記録・書類整理
- 13:10 訪問介護（3件目）
- 14:30 訪問介護（4件目）
- 15:30 記録・書類整理

帰り際の玄関にて。
笑顔でお見送りを受けてました。



料理の作り置き。
献立や味付けについて説明します。

休日は息子2人とお家の庭で楽しく遊んでいます！



介護業界に入った理由は？

グループホームに勤務する友人がいて、利用者さんとの会話で面白かった話などを聞かせてもらったとき、この業界に関心を持ちました。滝川市に引っ越してくるまでに、介護職員としていろんな経験を積んできましたが、この業界でまだ挑戦していないことにチャレンジしてみたいと思い、現在は訪問介護の現場で働いています。

仕事で大事にしていることは？

訪問介護は、一人ひとりと接する時間を長くとれるのが魅力だと感じています。利用者さんの相談に乗ったり、楽しくお話ししたりする中で、何か困っていることはないか、体調面で不安はないかなど、ささいなことでも気付けるよう日頃から心掛けています。困ったときには気軽に相談できる、利用者さんにとって身近な存在でありたいですね。